

## まちのキラリびと



特別なことではなく、小さな  
ことからコツコツと。西浦  
海岸でゴミ拾いを実践。

なごともひろ  
名子 朋宏さん (43)

敦賀の豊かな海を次世代に引き  
継ぎたい。

元々、海のアクティビティが好き  
で、よく海に足を運んでいましたが、  
海中で大きなコブダイと目が合い、「海  
のことを頼むよ。」と言われたような気  
がしたことがきっかけで、1年程前か  
ら西浦海岸のゴミ拾いを始めました。

調べてみると、海ごみ、特にプラス  
チックが生態系の破壊や異常気象の原  
因になっていることを知り、今以上に  
海が汚れ、子どもたちが悲しい思いを  
しないように活動を続けています。

漂着ごみは、ペットボトルやレジ袋、  
ロープ・海外製の容器など様々です。  
海中でも同様で、驚いたことにテント  
が丸ごと廃棄してあったこともありま  
した。そんなごみ処理を一人で全て行  
うのは大変ですが、できる範囲で実践  
しています。

一方で、若狭湾の海ごみの資源化な  
どに取り組んでいる団体「アノミアア  
ナ」の方々と知り合い、相互に情報交  
換をしています。多くの方が海を守る  
活動をされていることを大変心強く  
思っています。今後協力して、敦賀で  
何かできないか模索中です。

一人一人の活動は微力ですが、無力  
ではありません。豊かな海を次の世代  
につなぐための小さな一歩をこれから  
も積み重ねていきたいと思います。



豊かな西浦海岸の海

打ち上げられたゴミ

## まちの宝を発見！ つるが歴史遺産



案内人

学芸員 藤本 悠希

忘れてはいけない、  
敦賀の歴史の  
1つです。

基本情報

所在地：桜ヶ丘町



陸軍歩兵第十九連隊営門歩哨舎

敦賀に残る軍隊史蹟

コミュニティバス「金山」バス停からほど  
近く、桜ヶ丘団地の一角に「敦賀連隊史蹟碑」  
と書かれた記念碑があります。そしてその手  
前の交差点にあるのが、「敦賀連隊」と呼ば  
れた歩兵第十九連隊の営門前にあつた歩哨舎  
です。歩哨とは、警備や監視を行うことを指  
し、戦前はここに警備する兵士が駐在してい  
たものと思われます。

歩兵第十九連隊はもともと、第三師団に隸  
属し、名古屋に駐屯していました。しかし、  
日清戦争後の軍備拡張により福井県に一旅  
団二個連隊が設置されることになったため、  
1898年（明治31年）第九師団に転属し、  
敦賀に移駐されました。

戦前の歩兵連隊は、設置された地域への経済  
効果が期待されたため、多くの市町が連隊誘致  
に乗り出しており、当時の敦賀町でも大和田荘  
七らを中心に連隊誘致運動が進められました。

しかし、第十九連隊の敦賀誘致にあたって  
は、一つの問題がありました。兵営の建設予  
定地である地域が、井ノ口川が増水した際の  
放水地であったため、新たに堤防を築く必要  
があつたのです。この堤防工事費用の負担を  
巡り、陸軍省と県の間で対立がありました。

戦後、金山兵営は米軍が進駐し、その後、  
取り壊されました。そして1963年（昭和  
38年）、元在営者らによって組織された敦賀  
連隊史蹟保存会が、記念碑を造営しました。

この記念碑とともに残る歩哨舎は、数少な  
い敦賀の軍事史蹟です。

広報担当者の  
つぶやき

国道8号空商利活用イベントが11月1日に行われ、取材を兼ねて、イベントを回りました。後ほど子どもと合流したこともあり、何往復も歩き、気が付くと10,000歩を軽く超えていました。普段なかなか歩いていないので、いい運動になり、いつも以上にぐっすり眠れました。これを機に、少し意識して歩くように心掛けたいと思います。(K)

地域おこし協力隊の西山さんの取材へ行きました（4頁参照）。地域おこし協力隊に就任してひと月ほどしか経っていないのにも関わらず、おでんを提供する西山さんの元へ、たくさんの方々が声を掛けて来ていました。持ち前の行動力と人柄によって、繋がりができていっているのだなと感じました。(M)